

テーマ	具体的な目標	具体的な取り組み	反省と自己評価	保護者からのご意見
園の教育理念と目標達成について	保育教諭に対し、理念・目標への正しい理解と、達成に対する意識の向上を図る。	園の教育方針を毎日の保育に生かす様、各保育教諭に対し、日々の会議、保育の具体的な相談の中で意識向上を促す。	毎日の職員会議の中で、その時々に合わせて目標について話し合った。保育教諭個人には主幹保育教諭を通して指導、相談を常々し、保育に取り組んでいた。保育教諭の人数も多く、全員の意識統一を図る難しさを感じた。	入園案内に載っている教育方針で確認できた。具体的にどのような目標を立ててるのか、情報があると家庭での方針にも活かせると思う。
家庭と幼稚園の連携	不規則な生活の改善・忘れ物を無くすことで子どもたちの自立を促す。 子どもたちが、感性、好奇心を育み、健やかな成長の為、家庭と幼稚園の連携を図る。	子どもたち直接に伝えて行く。園と家庭生活習慣改善を図る。 忘れ物すると楽しい幼稚園生活に支障を来すことを理解させ、自分の用意は自ら積極的にすることを意識付ける。	子どもに伝えたことが家庭まで届き、問い合わせが多くなり、それをきっかけに面談を行うこともできた。 忘れ物に対する意識も変わり、特に年長は自ら気をつける子が増えた。 個別の対応が必要な子ども、保護者もいるので、全職員でフォローする体制を整えたい。	忘れ物をしないように気をつけるようになった。 しかし、忘れてしまった時には、子どもに注意するだけではなく、保護者にも連絡してほしい。
園児の成長・健康・家庭生活の把握と保護者との連携	園児の成長・健康状態・家庭環境を深く把握することにより、保護者との信頼関係を構築し、一人ひとり大切に、より深く成長に関わっていく。	個別の保護者懇談会や保護者との会話を大切にし、園児について教員が共有していく。必要に応じ、保護者の同意に基づき、医療機関・支援センター等の専門機関と情報交換・連携を行い助言する。	希望者には個別懇談を行い、園児の共通理解が得られた。懇談の他にも登降園時の送り迎えの時は積極的に声をかけ、園児の様子を伝え合った。 必要があれば専門機関と連携を取り、療育を開始できる体制が取れた。	先生たちがよく声をかけてくれ、子どもの様子を聞くことができた。
園生活の様子、園の教育をお手紙で伝える	クラスだより、園だよりの充実を図り、保護者に当園の理解と集団生活の中の子どもの様子を伝える。	クラスだよりに写真を入れ、画像からリアルに園生活が伝わるように、教育内容、集団生活の様子を伝える。保育教諭の文章力アップに取り組む。	週1回発行のクラスだより写真を多く取り入れ、園での様子を伝えやすくなった。 今後はホームページなども使い、園生活の情報を発信していきたい。	どんなことをしているかがわかりやすく、安心して登園させることができた。 家庭での過ごし方にも参考になって良かった。 園児の保護者だけでなく、園外の方にも知らせると良いと思う。手紙は写真が入っていて記念になって嬉しい。
成長と園生活の充実への配慮	毎朝のサーキット運動を充実させ、園児の園生活の質の向上を図る。	眠り脳の活性化を主に置いた運動メニューを取り入れる。毎朝運動を行う。	毎朝運動を行うことにより、脳が活性化され、集中して物事に取り組めるようになった。意欲、好奇心も増してきた。体力、運動能力も格段にあがった。 引き続き取り組みたい。	体力がついたように思う。姿勢も良くなった。食事でも良く食べるようになった。
健康への配慮	感染症の対策の徹底と知識を深め、予防に努める。園児ひとりひとりの疾病を教職員全員で把握する。	園児に対する手洗い、うがいの指導。保健所等と連携を図る。感染症等の情報について保健所や園医からの情報を保護者に発信する。	感染症の流行はほぼなかった。体調不良児の隔離、消毒などを徹底した。園児の体力の増加も原因として考えられる。 保護者も体調不良の時は欠席してもらうなど、よく協力してくれた。	感染症の情報はすぐに知らせてくれるので良かった。 風邪もあまりひかなくなり、強くなったように感じる。
安全への配慮	自由な外遊び時間のケガの防止。年齢ごとの発達を理解し、遊び方・参加のさせ方に気をつける。	遊具、園庭の状態観察等、怪我の予知とルール徹底する。教職員の意識向上を図る。	今年度新しい遊具が入り、使い方の指導を徹底した。年齢ごとに使い方も変え、危険がないよう気をつけた。 今までは大怪我に繋がらなかったようなことで骨折してしまったりと、園児の健康状態が気になることが何件かあった。	多少の怪我は仕方ないと思うが、きちんと報告はしてほしい。 どんどんと遊ばせてほしい。
保育教諭としての資質と能力	各種研修会への派遣、専門家の来園、専門講師による保育時間への積極的参加。 全教員に特別支援教育の知識を持つ。	専門講師に学び、自ら設定保育に取り入れ、園児の学習を深める。特別支援教育への知識向上は、保健所、医師、専門家との連携を図り、また、講習会への参加を促す。専門リーダー等の創設で専門分野向上を図る。	園に講師を招き、全職員が研修する機会を設けられた。 また、英語指導の講師と一緒に園生活を送ることで、園児だけではなく保育教諭も親しむことができた。 専門分野の向上はまだ不足しているので今後の課題にしたい。	英語の講師と生活しているためか、興味を持ち使おうとしているようだ。 具体的にどのような研修をしているのか教えてほしい。
子育て支援への取り組み	まめっちょ教室、キッズクラブどんぐり、園庭開放、絵本クラブの充実。	まめっちょ教室とキッズクラブどんぐり、園庭開放の開催日数拡大、そして、内容の充実に取り組む。絵本クラブへの教員の積極的参加。また、保護者に取り組みを周知していく。	未就園児は親子で参加のまめっちょ教室が人気だった。どんぐりは他園の開催日数も多く、人気は今ひとつであった。来年度は開催日を増やす必要を感じた。	様々な子育て支援があるので、もっと在園児の家庭にも宣伝してほしい。お手紙の中だけでは見逃してしまう。
特別支援を要する子への支援	個人の実態を把握し、専門家に相談の上、必要な支援をしていく。	職員会議等で園児の実態を保育教諭全体が把握し、専門家にアドバイスをもらう。 感覚統合療法への取り組みを実施する。 感覚統合、音楽療法の充実の為の環境整備を充実する。日常に感覚統合遊びを取り入れる。	保育教諭だけではなく、園長、主幹保育教諭も保育に入り、個人の実態を把握するようにした。どのような援助が必要か、園全体で考えることができ、支援に取り組むことができた。	療育をしていてくれてとても嬉しい。障害のない子は特別にみてもらえないのか。